

(三七五) 七月の『葛城一之宿御行所書上目録』に、「本尊薬師如来乃役行者御作、脇士月光日光等十二神将右同作、往古堂薬伽藍鐘楼鎮守之社三王門金剛童子其外僧坊数多有之由家ノ旧記相見申候、乱世以来退転致し、於今者薬師ノ本堂、金剛童子、別鳩泊、今八幡宮宝殿相残御座候」とあって、その転退の様子が書かれている。しかし、このような伽陀寺や行所は加太郷七村が詠誦に勤めたとも記されている。

加太の行者堂は、港の真上の山上にある。『紀伊統風土記』に「観音山の続き阿字ヶ峯といふにあり、修験の行所なり、迎之坊支配す」とあって、いまでも加太の行者講の人々が世話をしている。ここからは友々島をはじめ一ノ宿一带を遠望することができる。

なお行者像は、行者堂の西の淡嶋神社の境内にもある。『紀伊統風土記』の「能満堂」に「淡嶋社の前山の尾崎にあり、本尊虚空蔵菩薩、定朝の作といふ役行者像あり最古物なり。此堂は文明年間(一四六〇一六)、淡路の僧十穀覚乗の建立する所、淡嶋神社の本地仏とす。此時淡嶋神社と両部に祭りしといふ」とあって、雖流して有名な淡嶋社は、延喜式内社であり、加太荘の産土神であるとともに、もとは神仏混淆の社でもあった。



加太の行者堂

- ⑯ 「加太荘」の加太・磯脇・本脇・日野・深山・大川の六村。
- ⑰ 復刻版第一輯五一七頁。
- ⑱ 復刻版第一輯五一六頁。
- ⑲ 仏教の金剛界と胎藏界。

二、二ノ宿と神福寺跡

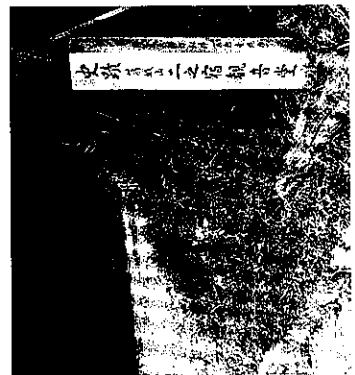
神福寺の経塚

加太の一ノ宿、伽陀寺から東へ堤川にそって北東の日野集落の東の谷を溯ると二ノ宿、神福寺の跡がある。

二ノ宿とは、この日野にある光福寺、西庄の北にあった神福寺、そしてその北の佐瀬川にある慈眼寺をいう。なかでも神福寺はその中心的存在で境内も広く、ここに葛城二十八品の第二方便品の経塚がある。

江戸時代には、加太一ノ宿の行所を巡行した一行は、東ノ谷ぞいの日野集落に入り、光福寺をへて神福寺の峰に登った。

この光福寺は、日野集落の北端にあって、『紀伊統風土記』には、「寺の後に阿伽井あり、山臥の行所なり。昔此地に十輪寺といふ寺あり。嘉吉(一四二一四)の文書にあり、廢亡の後其跡に此寺を建しとい



二ノ宿観音堂跡

- ① 「ウソも方便」と世間でいわれるように、人によって例をあげて世の人を導く教えて、法華經の二天中心をなす教義。
- ② 復刻版第二輯五二六頁。

ふ。境内に地藏堂あり、十輪寺の地藏といふ」と記されている。

神福寺跡へは、いまは西庄の和歌山西高校からの車道を登ると、峠に「史蹟、葛城山二之宿観音堂」の花崗岩の真新しい石碑がたっている。

ここには第二次世界大戦時に紀伊水道を守る砲台があったが、いまはその跡に大川焼の窯元の工場が建っている。

この鞍部は、和歌山県側の加太へ流れる境川と大阪府側の多奈川へ流れる西川の源流に当たっている。この鞍部が多奈川と加太を結ぶ里人の道であり、また修験者もこの道を通ったのである。

この鞍部の平坦地は、ミカン畑となっているが、ここに二ノ宿神福寺があった。いまも「善女ヶ池」「深池」と史料にある小池が残り、畑の西に第二方便品の経塚がある。

天保一〇年（二六〇）ごろの『紀伊続風土記』には、^④「二之宿観音堂、村より北、葛城峯にあり、本尊十一面観音、脇士八幡大菩薩、大威徳明王なり三像共に役行者の作といふ、また此堂の西に行者堂一字あり、皆^⑤八幡社司山本氏別当なり。堂の前、方便品の経を蔵めし秀倉あり、山伏の行所にして毎春、聖護院宮代僧誦経執行の所なり。また五月には高野山先達も、ここに来て護摩を執行す。古は二之宿の外に苗代之



神福寺跡と池

③ 前者は『葛嶺雑記』、後者は亮永の『峯中記』に記されている。

④ 復刻版第一輯五〇七頁。

⑤ 現在の木本八幡宮で、宮司は山本達郎氏。

泊、鳩之泊、百足之泊、行者還、阿振寺といふ五箇所之行所ありとそ。いま皆其地を知らず」とある。

この記録から江戸時代の神福寺の隆盛と、寺域の様子がわかる。したがって、神福寺には、観音堂・行者堂・経塚があり、天台宗の聖護院と真言宗の高野山の先達が護摩供を行っていたのである。この高野先達の記録である宝永六年（一七〇九）の『葛城先達峯中勅式廻行記』にも「二ノ宿分」として、「観音堂、行者堂、金剛童子、座禅石、方便品ノ石、善女龍王ノ池」が記されている。さらに幕末の『葛嶺雑記』にも同様な諸堂や行所の名称が記されていることから、江戸時代には大きな変化はなかったのである。

智航上人もこの二ノ宿を、

ひと基に 二つ宿らむ連華の
華はこそめに 咲き匂ふらむ

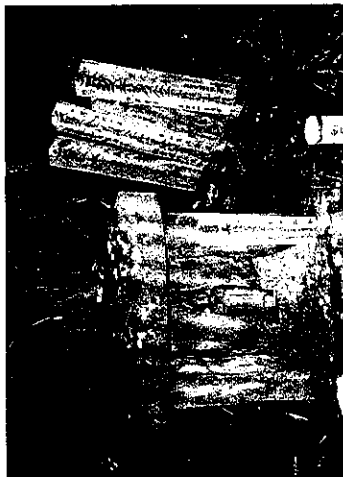
と詠じている。

いまは善女龍王の古池と、方便品の経塚が残る寺跡となっている。

経塚は寺跡の西の少し小高い段にあり、小字を「不動寺原」という。雑木と笹原が茂り分りにくいが標識がある。

石祠は、和泉砂岩の高さ七〇センチ、幅六センチ、苔むした台石の上にあ

④ 山岳宗教史研究叢書18『修験道史料集』①西日本篇・名著出版一九八四年。



第二方便品の経塚

る。左前に三〇形四方の手水石があるのみで、当日は犬鳴山・那智山・副青連(副山青年連合会)・聖護院の禪伝がおかれていた。

明治初年に陸軍の軍用地となり、また「修験道廃止令」もあり、神福寺は廃絶し、麓の西庄にある仏国山西念寺内に移転した。

西念寺の観音堂は、浄土宗西山派の梶取村総持寺の末寺である。堂内の厨子には、十一面観音と役行者を祀っている。堂前の灯籠に「葛城山二ノ宿永代、文化二年三月」と刻され、手洗石にも「葛城二宿、貞享二年二月」とあり、神福寺の尊像や寺域の石造物はここに移転したことがわかる。

一方、行者堂は南海加太線八幡前駅南にある二ノ宿慈眼院の別当であった山田孫太郎氏邸内に移され、役行者と前鬼・後鬼が祀られていたが、いまはその面影もない。

佐瀬川の里

さて神福寺跡から川にそって水田の細道を北へ下ると、大阪府岬町佐瀬川に入る。

集落の東端に、明徳山慈眼院がある。宝永期の『葛城先達筆中動式廻行記』には、「観音堂(十一面)、辻の上に「金剛童子」、森に「ク

ズ大明神」と記され、幕末の『葛嶺雑記』は「九頭龍明神、本地堂十一面、神変大士、金剛童子、山上に熊野権現」とあって、江戸時代は観音堂・本地堂と呼ばれていた。また、この十一面観音は秘仏とされていた。このことは『和泉名所図会』に「観音は、役優婆塞此峰を過り給ひ、大悲の像を彫刻せんと思ひ給へとも、ころにかなふ良材なし。偶々紀伊国海士部郡の海浜に於て、霊木一株を得給ひ、みづから作らせ給ふ尊像也」とその由緒が記されている。

ここは『諸山縁起』にいう「苗代宿」「山田留」ともいう。たしかに山間にあっても案外に水田が多い。また山田孫太郎家の天台系別当が支配した地でもあった。

これより西川水系を東へ峠を越え、東川水系となる。この峠をもって二ノ宿から三ノ宿に移る。

⑦明治五年(二六三)太政官布告で修験道の廃止と、天台・真言両宗に帰入する命令。神仏分離令の拡大解釈による。



西念寺の観音堂

⑧寛政七年(二七四)秋里藤島の著(復刻版・三七六頁柳原書店一九七六年)。



佐瀬川の観音堂

三、三ノ宿と金輪寺

横手の三ノ宿

三ノ宿の佐瀬川から東へ登ると、和歌山市木本へ越える猿坂峠の道となる。ほどなく池の堤にでると、地形図にも記されている甲山がみえる。この鞍部を越えると横手の里である。

集落に入るところに三叉路があり、右手の森に「葛城経塚巡行三の宿、横手村八王子社」の標識がある。鎌倉初期の『諸山縁起』に「松白の宿、今熊野これなり」とあり、また室町初期の『葛城峯中記』の「右ノ山ニ九頭明神、弁財天、左北ノ山原ニ福智寺ト云旧跡あり」、幕末の『葛城雑記』は「三之宿横手村、八王子社、本地堂千手」とあって、横手の里は、いまの八王子社のある森と福智寺が修験の行所であった。福智寺の跡は左手の畑地といわれ、また右の森を登った山腹にひっそりと木造の三輪明神が鎮座している。社の右に三つの石祠があ



横手の八王子社

り九頭明神・弁財天、そして孝子越えにあった八王子社と思われる。横手の里を通り小川の橋を渡ると、道端に瓦葺きの小さな小堂があり、石仏が折り重なって立てかけてある。可愛らしい衣を着せかけた野仏である。ここに大鴨山、青岸渡寺などの碑伝が置かれている。

これより農道を石倉谷という小川にそって進むと、池の堤を右にみて山にさしかかる。左手の木に「葛城経塚孝子越」の標札が結ばれ、「八王子社」の標識がある。

この峠道は「孝子越え」と呼ばれ、横手から孝子への最短距離で古くからの道であった。最近まで雑草が繁茂し通過困難であったが、岬町によって道も整備され、「葛城二八宿修験コース」の標識も要所にたてられた。



横手の小堂

孝子の金輪寺

孝子の里は、上・中・下の三村に分かれる。修験の道は中孝子の金輪寺が三ノ宿に入る。『葛城峯中記』や、『諸山縁起』の「黒沢寺」の所在は不明であるが、「金輪寺釈迦」や『葛城先達峯中勅式廻行記』の「釈迦カ滝、釈迦堂」は現存する。この金輪寺の縁起には、「元禄四年（二六）に普照山金輪寺と改宗され、黄檗山萬福寺の末寺であり、本



横手の石仏

尊釈迦牟尼仏は今を去ること千二百年前に飯盛山に千間寺（飯盛寺）あり開基として役小角、真言宗の巨利で（中略）天正五年（三毛）二月織田信長の兵火にかり焼失し、本尊は朝日谷に投ぜられ、村人は池の中から救い出し金輪寺の本尊とし、秘仏として六十年毎に開帳される」と記されている。

中孝子の金輪寺までが三ノ宿で、南海本線、国道が通る大川より東の上孝子の高仙寺は四ノ宿となる。天保七年（二六）四月の孝子三村の村絵図には「葛城三ノ宿金輪寺」「葛城四ノ宿高仙寺」と記され、三村に高札場が記されている。この高札は、『勤式廻行記』の「札場ノ地藏」の行所にあり、中孝子の南端に当たる。



金輪寺の本堂

① 岬町立孝子小学校に保管されている。

四、飯盛山と高仙寺

孝子観音の高仙寺

中孝子の金輪寺から東方にそびえるのが高野山二八五段である。この麓に上孝子の高仙寺がある。この寺へは和歌山県側からは、和歌山市平井峠を越えて参詣する道があり、「孝子の観音さん」として有名である。峠の手前に慶応三年（二六）の若山観音信心講による「左、孝子観音道」と自然石の道標がたっている。

南海本線孝子駅から東へ行くと「くはんおむみち」と刻まれた道標があり、上孝子の里につくと、本堂への一直線の石段の登り口には、「禁殺生」の巨石が立ちはたかる。立派な山門をくぐり境内に入ると、参道の左に、庫裡、地藏堂、庚申堂、右に小さな鐘楼がある。その上の左に「役行者神変大菩薩」と書かれた行者堂と錫杖が建っている。奥の本堂は「高仙寺」の額が掛かっている。本尊は秘仏の十一面観音

高仙寺の山門

